

長坂瀬家資料について

長坂瀬家資料 527 点と、同家に残された書籍類 565 冊は、平成 14 年の秋高遠町図書館に寄贈され、約 6 ヶ月の整理期間を経て、目録が作成されたものである。

長坂瀬家資料を大別すると、長坂瀬氏の先祖数代に亘る人々が、内藤公に仕えた時代の高遠藩関係の諸記録と、長坂瀬氏が、明治から昭和にかけての長い期間携わられた学校教育関係の諸資料、また、教員生活のかたわら、熱心に取り組まれた郷土史研究関係の諸資料、長坂家のあった旧的場村関係の資料、更には、長坂瀬氏自身の趣味である短歌・俳句・書画などに分けられる。

高遠藩関係の記録の中には、高遠藩の御先手組に属して御供方を勤めたので、江戸への参勤行列帳、大坂加番の際の行列帳、更には江戸における火消し出動の際の行列帳などが残っている。また、御厩関係の勤仕の記録や、分一方関係の諸記録などがある。

教育関係の資料の中では、大正時代の長野県の児童矯正施設『海津学舎』における記録などが、珍しいものと思われる。『おやのつとめ』は、長坂瀬氏の著作であるが、長坂氏はその中で、学校教育の成果は、家庭における両親の愛育の上にはじめて花開くと、家庭教育の大切さを述べている。

長坂瀬氏の郷土史関係の著作には、『新撰高遠誌』『老女江嶋』『御子柴艶三郎伝』などがあり、これらの著作の元となったたくさんの調査資料が残っており、熱心で緻密な研究ぶりをうかがわせる。

書状類の中には、中村不折ほか多くの高遠出身者などからの年賀状や書状があり、与謝野寛（鉄幹）からの書状もあって、中に与謝野晶子の名刺も同封されていて、思いがけない発見であった。

書籍は、漢籍から歴史関係・医学関係・俳句・短歌・現代の小説本まで、長坂氏の趣味の広さを伺わせるものが多かった。

平成 15 年 2 月 高遠町図書館

『長坂瀬家』目録分類

資料番号 「1-1」～「1-531」 ……資料目録

資料番号 「2-1」～「2-565」 ……文庫目録